

◎ 目 次 ◎

第一章 茶式総論

第一節 茶式の神髄…………… 3

第二節 茶式精解…………… 17

第二章 修持要領

第一節 茶道礼儀…………… 39

第二節 精進修持…………… 52

第三章 基礎茶式（実演編）

第一節 茶式概述…………… 59

第二節 実演編…………… 61

① 洗 塵…………… 61

② 坦 呈…………… 67

③ 蘇 醒…………… 71

④ 法 度…………… 73

⑤ 養 成…………… 79

⑥身	受	87
⑦分	享	87
⑧放	下	95
第四章 基礎茶式(研修編)		

第一節 概 述	103
---------	-----

第二節 研修編	105
---------	-----

①洗	塵	105
②坦	呈	111
③蘇	醒	115
④法	度	116
⑤養	成	119
⑥身	受	127
⑦分	享	131
⑧放	下	135

附錄一…基礎茶式(実演編)解説	140
附錄二…茶道服装	147

## 第一節 茶式の神髓

### 一 茶道の精義

茶とは古より中華文明と結びつき、古式にのっとった神秘的な中国茶道を育んできた。

茶道とは、人類の飲茶の基本であり、その回甘の体験（口の中で茶の味が苦みから甘みに変わることに）に始まり、茶事の美意識、やがて生命の悟りを得るに至る道である。茶人にとって、回甘の体験と、茶事の美意識と、生命の悟りの三者は、茶道というものの基盤であり、物質面、精神面、心理面の三層から成り立っている。もし、回甘の体験が茶の味を重んじること、茶事の美意識が品格の重視につながるとすれば、生命の悟りは茶の真意を追究することにはかならない。味から品格、そして真意に至る過程は、飲茶の基本的な規律、文化的価値の追究を体現している。茶道は、自然の真と文化の善と芸術の美が一体化したものとさええよう。伝統文化の土壌の中で豊富な内容と体系が整い、千年の時を経た今もなお、強靱な生命力を備えている。

「惜茶愛人」という茶道の宗旨を中核にして、茶道を大きく三部に体系づけてみることにする。

一つには茶道の意義。これは茶道の精神、「潔、静、正、雅」を含む美意識の角度から、「守、真、益、

和」の茶の道徳的意義にまで及ぶ。

二つには、茶道研修。これは、爪の先まで及ぶ喫茶を享受する生活、それにふさわしい人格、人生を達観する研修方法で、その代表が、基礎茶式となる。

三つには、茶道の実践。すなわち茶道の精神性を実生活において表現する方法で、茶会の開催やボランティアの実践も含まれる。

茶道は、茶学、美学、文学、宗教、哲学、倫理、道徳、民俗などの多くの領域に及び、陶芸、書画、音楽、建築、装飾、礼儀、華道などさまざまな芸術的要素をあわせ持っている。茶人にとって、茶道を学ぶことは茶をいれて飲む技術を高めるだけでなく、自己を陶冶し、美意識や思想を高め、言葉遣いや立ち居振る舞いをよくし、無欲でゆつたりとした品格のある人にさせるのにも役立つ。

茶の美を悟ることにはじまり、飲茶の奥深さを知り、茶道の真理を悟り、茶道の神髄に至るには、当然、一足飛びには成らず、階段を一段ずつ上っていくようなものである。茶道は人文の芸術であり、実践の科学といえる。したがって、本当の知識を知り、研修によって真理を得ることができる、まさに知行合一である。

それは飲茶のようなものであり、茶の甘苦や冷熱のなから味わいを見出すのは、ただその茶を飲む者自身のみである。茶道において、研修は不可欠な過程である。これは灯台のように茶人が行くべき方向を指し示し、階段を上るように茶人に茶道の奥義を探す手助けをする。茶道の研修なしに、茶の性

格と品質を理解することは難しく、点前の際に茶道の魅力を感じることもできず、茶道の真理にはたどり着けないのである。

## 二 「基礎茶式」

基礎茶式は、洗塵、坦呈、蘇醒、法度、養成、身受、分享、放下という八つの動作の組み合わせで、これは、「大益茶人」による独創であるが故に「大益八式」と呼ぶ。茶人への入門には必修の基本所作である。

茶道研修の方法として、基礎茶式は最も重要な、「茶」「水」「器」「道」の四つの一体化を目指す。あらゆる芸術は、基本所作の修練無しに習得は叶わず、例えば、書道において「永字八法」が筆の使い方の基本を習得するために、必ず学習すべき修練であるように、茶道においては、基礎茶式で基本的な所作と各所作と道具の持つ意味を学ぶことが基本となる。基礎茶式は茶を学ぶための基本所作であり、各々の所作と段取りには特定の意味がある。基本的な所作を学び、毎回心を込めて茶をいれ、専心して各々の所作を深く理解すれば、次の段階へ進む準備ができる。当然、茶道研修者は勤勉でまじめでなければならぬ。

基礎茶式は、質朴、上品にしておおらかであり、「潔、静、正、雅、守、真、益、和」の茶道精神を適切に表現している。全ての所作に特別な意味があり、それらは概ね以下のようになる。

- ① 洗塵 両手を清め、心を落ち着け、茶をいれる準備をする。
- ② 坦呈 道具を並べ、胸襟を開いて、誠の心を示す。
- ③ 蘇醒 道具を温め、湯を注ぎ入れることにより、急須を目覚めさせる。
- ④ 法度 茶葉を量り取る。何事も適度が大切である。
- ⑤ 養成 湯が茶を引き立て、色、香りともに立つ。
- ⑥ 身受 茶が入り、まず自らが試飲する。実践した者が、真を知る。
- ⑦ 分享 友人たちを招き入れ、共に茶を楽しむ。
- ⑧ 放下 茶式の終了。茶道具を整理し、次に備える。

形式の上で、基礎茶式は静と動の動作の組み合わせであり、雲水の如く自然でありのびのびとしていることが重視され、芸術的には美の極致を追究し、手、目の動き、呼吸、動作、衣服、道具、あしらわれた花や木は、等しく精妙であることが求められる。方法の上では融通をきかせ、公衆の面前で披露するのでもよく、一人で研修するのでもよい。茶道の点前の際、練習者は常に観る者に好感がもたれるような態度で臨むことが大切で、研修の際は、言葉で表現しようとはせず、あくまで静謐を心がける。

そもそも、基礎茶式の源は、中国茶道の家元の正統性と深い文化に根ざしている。基礎茶式が形とするところは、おらかな美しさであり、基礎茶式が意とするところは、研修者が心身を修養するための悟りの茶道である。つまり、形は美しく、意は深く、心は優雅に保ち、味は尽きることがない。

著者：呉遠之 (Wu Yuan-Zhi)

茶人、大益グループ理事長、大益茶道院及び大益愛心基金会の創始者。

長きにわたり茶道の学術的な研究と実践に携わり、初めて「惜茶愛人（茶を大切にし、人を慈しむ）」という茶道の精神を唱え、現代における学術文化としての茶道学科の設立と茶道の職業化の振興に力を注ぐ。茶道は心の良薬であると篤く信じている。

発行者：大益茶道院

大益茶道院（ACCTM）は中国第一の職業茶道師が認める研修機関であり、2010年5月に昆明で成立し、職業茶道師の養成、試合、品評や、茶道学科の建設と茶道の交流及び普及に力を注いでいる。創始者は著者の呉遠之氏。

大益茶道院は、中国数千年の茶文化の真髄を伝承し、茶聖と称される陸羽を宗師に「惜茶愛人」を主旨とし、「潔静正雅」を美学の原則に、「守真益和」を修身の法則に、「大益八式」を修業の儀礼規則にして、大益茶道の体系を創立し、教育、試験、品評などの規範や規則の仕組みを確立することにより、茶道の人材を育成し、茶道の文化を発展させ、人文の精神を伝え広めるという歴史的使命を負っている。

#### 参考文献

- 小林勝人訳注『孟子』上・下（岩波文庫、1968・1972年）  
金谷治訳注『論語』（岩波文庫、1999年）  
蜂屋邦夫訳注『老子』（岩波文庫、2008年）

き そ ちやしき ちゅうごくちやどうけんしゅうほうほう  
基礎茶式——中国茶道研修方法——

---

2015(平成27)年10月30日発行

定価：本体900円（税別）

著 者 吳 遠 之  
翻 訳 者 井上由紀子  
田丸祥幹  
高 丹 丹  
編 集 者 高 丹 丹  
発 行 者 大益茶道院

---

制作発売 株式会社 思文閣出版  
〒605-0089 京都市東山区元町355  
電話 075-751-1781(代表)  
装 幀 上野かおる（鶯草デザイン事務所）

---

©Wu Yuan-Zhi ISBN978-4-7842-1824-0 C1076